

秋が深まってきました。

横井公園の大きな木も、緑から黄緑、そして赤へとだんだん色が変わってきています。

「秋」と言えば、みなさんは何を連想しますか？

「食欲の秋」「スポーツの秋」いろいろありますが、「読書の秋」という言葉もあります。秋は読書をするのに良い季節です。そこで今日は「読書」、つまり本を読むことについてお話しをします。

まず、今日10月23日は「なごやっ子読書の日」です。「本を読むことはすばらしい。ぜひたくさんのお子にも本を読んでほしい。」という意味で決められました。

そして、浮野小のある保護者の方から「ぜひみんなで読んでほしい」ということで、本を20冊ほど、学校に寄付していただきました。何日か後に、各教室に置く予定ですなので楽しみにしていて下さい。

また、先週の火曜日から、1時間目が始まる前の時間に、地域のボランティアの方々が、本の読み聞かせをしてくださる活動が始まっています。

先週は1年・2年・3年生で、それぞれ1回ずつ読み聞かせを行いました。今週は4年・5年・6年生、来週はなかよし学級で行う予定です。2学期の間は、各クラス4回ずつ行う予定ですなので楽しみにしていてくださいね。

そして、本を読むことが好きな人はもっともっと本が好きになって、本を読むことが苦手な人も「一度読んでみようかな」という気持ちになることを願っています。

校長先生は、本を読むことは友達を作ることと似ていると思います。友達がいなくても生きていくことはできますが、友達がいると一人でいるときより遊ぶのが楽しくなったり、つらいときに励ましてくれたりします。

本も同じです。本を読まなくても生活には困らないかもしれませんが、本を読むことによってすばらしい感動を味わうことができるかもしれません。たまたま出会った一冊の本が、困ったときにアドバイスをしてくれるかもしれません。

また、最初は何とも思っていなかったのに、話をしていくうちにだんだん仲良くなってきて、いつの間にか友達になってしまうこともあります。逆に小さい頃は仲が良かったのに、成長するにつれてだんだん話が合わなくなるということもあります。

本も同じです。最初は「全然おもしろくない」と思っていた本でも、何度も読み返すうちにそのすばらしさにはまってしまうかもしれません。逆に、小さい頃に好きだった本が、ある時つまらなく思えることもあるかもしれません。それは、あなたが成長した証拠です。今の自

分にぴったり合う本を探して、いろんな本を読んでほしいと思います。

最後に、校長先生が今までに出会った本の中から、「親友」と呼べる、大好きな友達のような本を紹介します。

それは、2年生の教科書に載っている「きつねのおきやくさま」という本です。普段人をだましてばかりいる、ずるがしこいきつねが、自分を信じてくれる友達を守るために、命をかけて敵と戦う姿は、何度読んでも感動させられます。自分にもきつねのような勇気がほしいと思います。

皆さんも、たくさん本を読んで、そこから自分の親友となる本を探してほしいと思います。